

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成 26 年 6 月 28日

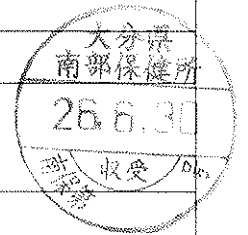
大分県知事 広瀬勝貞 殿
(市長又は区長)

提出者

住 所 大分県佐伯市常盤南町8番33号
氏 名 谷川建設工業株式会社
代表取締役 谷 川 憲 一
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0972-22-2601

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	谷川建設工業株式会社	
事業場の所在地	大分県佐伯市常盤南町8番33号	
計画期間	平成26年 4月 1日 ~ 平成 27年 3月 31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
①事業の種類	特定建設業	
②事業の規模	元請完成工事高 ￥1,731,150,000.	
③従業員数	56人	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・コンクリート殻・アスファルト殻～ 自社にて、中間処理（破碎機により粉碎・選別し、再生骨材にて、再利用。） ・その他の廃棄物～ 収集運搬業者及び、中間処理業者及び、最終処分場へ、運搬・破碎・選別、再利用、埋立処分。	



リストOK

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

廃棄物処理総括責任者・・・谷川憲一

廃棄物処理総括責任者代理・・・清田幸弘

廃棄物処理責任者・・・・・・・・河村政治

廃棄物処理副責任者・・・・・・・・今山浩一

適正処理推進員・・・・・・・・河村政治

処理業者・・・・・・・・自社・収集運搬業許可業者(委託)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(25年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラスくず、石膏ボード、	木くず	草・土混載	金属くず	廃プラ
	搬出量	6,704.08 t	2.49 t	779.72 t	1,495.05 t	8.9 t	10.01 t
	産業廃棄物の種類	混合(管理)	混合(安定)	廃石膏ボード	建設汚泥		
	搬出量	9.0 t	12.89 t	30.02 t	248.76 t		
	産業廃棄物の種類						
	搬出量						
(これまでに実施した取組)							
廃棄物の分別を心がけ、リサイクルを出来るだけ進めて、廃棄物の減量化を進めてきた。							
② 計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	コンクリートガラ	アスファルトガラ	その他のガレキ	木くず	金属くず	廃プラ
	搬出量	1,000 t	2,000 t	30 t	600 t	10 t	10 t
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃石膏ボード	混合			

	搬出量	170 t	0.5 t	7.0 t			
(今後実施する予定の取組)							
<p>コンクリート殻、アスファルト殻は、自社中間処理にて、破碎し再生骨材として、再利用しており、1日5トン以下の処理施設を5トン以上の処理施設へ変更した。</p>							
産業廃棄物の分別に関する事項							
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)						
	<p>工事で発生する廃棄物に関しては、リサイクル可能な物は分類し、搬出し、その他は、最終処分（安定型）に処分している。</p>						
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)						
	<p>廃棄物の分別を心がけ、リサイクルを出来るだけ進めて、廃棄物の減量化を進めていきます。</p>						

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート・アスファルト殻	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	2,000 t	t
	(これまでに実施した取組)		
自社敷地内での、中間処理（破碎）			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート・アスファルト殻	
	自ら再生利用を産業廃棄物の量	1,000 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自社敷地内での、中間処理（破碎・選別）			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（25年度）実績】		

		産業廃棄物の種類	コンクリート ・アスファルト 殻	
		自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	1,646.9 t	t
		(これまでに実施した取組) 現場での分別を、収集業者のコンテナにて行い リサイクル品と分別して、搬出をしている。		
	②計画	【目標】		
産業廃棄物の種類		コンクリート ・アスファルト 殻		
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		0 t	t	
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量		1,000 t	t	
(今後実施する予定の取組) 現場での分別を進めて、ゴミの減量化をします。				

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
① 現状	【前年度（ 25 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t	
	(これまでに実施した取組) 処理業者の選択を、周知・徹底しています。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t	
	(今後実施する予定の取組) 今後とも、現場での分別を進めて、ゴミの減量化・適正な産廃処理を 各現場責任者へ、周知・徹底します。			

	再生利用業者への 処 理 委 託 量	100 t	100 t	3.0 t	2.0 00t	2.0 00t	2.0 t	350 t	0t	0t
	認定回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	資源燃焼処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>今後とも、現場での分別を進めて、ゴミの減量化・適正な産廃処理を各現場責任者へ、周知・徹底します。 アスコン・コンクリート殻にかんしては、自社（中間処理）にて処理を徹底させます。</p>										
※事務処理欄										